

WORK EMOTION 20年の軌跡

「履き手」が第一
モータースポーツもストリートも

復帰翌年にクラスタイトルを勝ち取った
スーパーGT用レーシングホイール

削り出し鍛造における研究開発の一環として、2014年からスーパーGTへ再挑戦を図ったワーク。翌年には早くもGAINER TANAX GT-Rでクラスタイトルを勝ち取っているのだが、その時供給していた2015モデルはストリートホイールのエッセンスが注入され、機能最優先で全塗り仕立てが多いレーシングホイールにおいて異色となるリム切削仕立てだった。その後、さらなる剛性確保を図るリムオーバーなど小改良は重ねているが、コンペティションシーンで優れたホイール性能を発揮する10本スポークは今も変わらない。

スーパーGT直系の10本スポークで果たす
ワークエモーション史上最軽量『ZR10』

ワークエモーション20周年という記念すべき節目で新しくリリースされたのが、シリーズ初となる10スポークを採用する「ZR10」だ。ブランド誕生時にレース用鍛造モデルを「ワークエモーション」へと落とし込んだように、アニバーサリーモデルとなるZR10はスーパーGTでシリーズタイトルを勝ち取ったレーシングホイールの2015モデルからフィードバック。安心して踏める高剛性を確保しながら、全サイズにおいてシリーズ内最軽量を誇る逸品へと仕上げてきた。

レーシングホイール直系のストリートスポーツブランドとして、1999年に誕生したワークエモーション。デビューモデルは鍛造1Pだったが、「高性能だが高価な鍛造ホイールよりもユーザーが手の届きやすい鍛造ホイールで高性能と機能美を届けるべき」と、レーシングホイールからのフィードバック姿勢は崩すことなく、鍛造スポーツの限界探求を日々図ってきた。今回、20周年のアニバーサリーモデルとして用意されたZR10は、デビューモデルと同じくレーシングホイールをダイレクトにストリートへフィードバックしたもの。モータースポーツもストリートも常に「履き手」を第一として開発へ取り組んできたワークエモーション20年の軌跡とともに、新作ZR10をクローズアップしていこう。

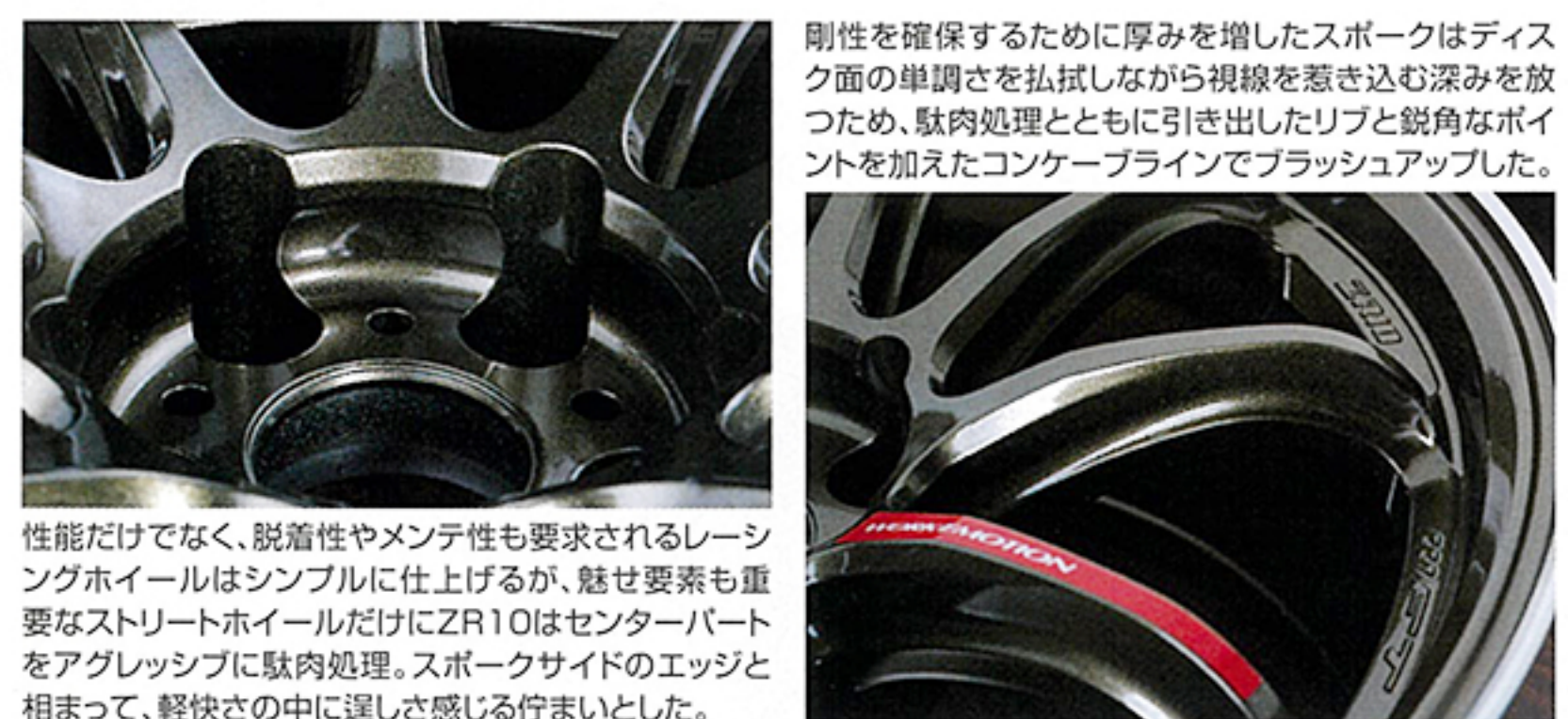
WORK EMOTION 20年の軌跡

WORK EMOTION ZR10

シリーズ初となる10本スポークを採用し、アニバーサリーモデルにふさわしい軽量化と高剛性を突き詰めたZR10。タイヤとホイールの境界線をクッキリ魅せるリップカットは、チタンとブラックの2色へ設定されている。



スーパーGTへ供給しているレーシングホイールは、10本スポークをベースとしながら常に進化を遂げている。ZR10がモチーフとしたのはフランジスポークエンドを落とし込んだ2015年モデル(写真右)だが、2017モデル(左)ではさらなる剛性を引き出すためリムオーバーへと改良が加えられた。もちろん、2015モデルがモチーフとはいってもZR10はストリートホイールとしての最適化が各部に図られているので剛性不足は一切感じない。



剛性を確保するために厚みを増したスポークはディスク面の単調さを払拭しながら視線を惹き込む深みを放つため、駄目処理とともに引き出したリップと鋭角なポイントを加えたコンケーブラインでブラッシュアップした。



装着車種を絞り込んだスペシャルカラー ZR10 "KURENAI" がデビュー!
ブラックカラー×切削リムのクリアレッドで仕上げられた「KURENAI」が、ZR10に仲間入り。これは全サイズで選べるのではなく「黒×赤のスポーティな足元を履きこなして欲しい」とワークが考える車種限定で展開するモデルだ。そのため、設定するのはシビックタイプRやWRX STI、ノートスモなど限られたスポーツモデルに向けたサイズのみ! そんな、アニバーサリーモデルを一層特別なものとするスペシャルカラーを見逃さない!!

20周年のアニバーサリーモデルとして用意されたZR10は、ワークがスーパーGTへ復活した翌年にGT300クラスのシリーズチャンピオンを獲得したレーシングホイールの2015年モデルがモチーフだ。
もちろん、センターロックとなるレーシングホイールを単に市販車へ合わせたマルチホールとしたのではなく、鍛造での性能最適化とストリートホイールとして必要な魅せる要素にもこだわって、ZR10は細かくアレンジされている。

まずは剛性を確保するために厚みを増したスポークだが駄目を削ぎ落としてシャープさを引き出しつつ、鋭角なポイントを加えたコンケーブラインで足元の深みを強調。そしてマルチホール化されたセンターパートは、側面を抉るような駄目処理で軽量化とともに逞しいアクセント付けが果たされた。その結果、研ぎ澄まされた10本スポークは全サイズにおいてシリーズ内最軽量という偉業までも成し遂げたのだ。また、魅せ要素の追求は造形だけでなくとどまらない。アウトタームの

フランジ部のみ切削してシャープさを強調するリップカットの新設、新色アズールホワイトだけでなくカラリズムやアステリズム対応で多彩なアレンジが楽しめるカラーバリエーションで、スタイルや好みに応じた足元の構築が可能だ。
性能ありきのレーシングホイール直系モデルでありながら、見た目にも優れたZR10。「手の届きやすい鍛造ホイールで高性能と機能美を届ける」というワークエモーションのこだわりが余すことなく凝縮された一本となっている。

ワーク 開発部 梅内高宏さん
「ワークエモーションZR10は、まさにシリーズ20周年の集大成となるモデルとして、軽量・高剛性というスペックを妥協なく突き詰めたホイールになります。そして、レース直系ならではの無駄のない機能美の中に、コンケーブラインを始めとしたストリートで映えるための緻密なデザインを盛り込んでいます。多彩なアレンジにも対応しますので、是非その魅力を堪能してください」



ZR10という 性能と意匠の革新



1998年、鍛造ホイールが全盛の中でワークが戸田レーシング・F3に供給したのは国内初となる鍛造マグネシウム1P。シリーズチャンピオンこそ運したものの、加藤寛規選手はシリーズ2位を勝ち取った。なお、この2x5デザインは全日本GTのレーシングホイールにも投入され、ワークエモーションのルーツとなっている。



記念すべきワークエモーション誕生を飾った鍛造1Pはスーパー耐久を戦っていたランエボで大活躍。当時はモデル名も用意されておらず、ブランド名がモデル名となっていた。
2001年から関わっているD1には常にワークエモーションの新作を投入。タフな走りに対応する強靱さだけでなく、ワイドボディにもドンピシャの履きこなしが可能なマルチピースや足もとに視線惹きつけるカラーアレンジでもギャラリーを魅せている。



ワークとモータースポーツの関わりは非常に古く、1983年に遡る。当時、ワークがレーシング部門を設立して挑んだカテゴリーはF2やF3といったフォーミュラで、自社チーム以外にも戸田レーシングなど有力チームにレーシングホイールを供給。1991年には国内最高峰となるF3000で、片山右京選手のシリーズチャンピオン獲得にも貢献しているほどだ。
その後もスーパーGTやスーパー耐久、ラリーにダイナミクス、そしてD1といった多彩なモータースポーツへホイールを供給。各カテゴリーにおいて、数え切れないほどの好成績を納めている。
「モータースポーツへのホイール供給は、ストリートホイールの性能と品質を向上するために欠かせません。ただ、ワークエモーションが性能至上主義とも言えはそうじゃない。履き手を第一とするための市場調査で、手の届きやすさや判断し、鍛造1Pでデビューさせた初代のワークエモーション以降は鍛造で性能を追求してきました」とは、長年に渡ってシリーズの設計を手掛けている梅内さん。



ワークエモーションで見逃せないのは「魅せる」というニーズへの柔軟な対応もある。ユーザーから狙いの履きこなしにインセットが届かないという声が届けば、得意とする2Pや3Pをスタンバイ。カラリズムやアステリズムといった多彩なカラーアレンジ対応も、オリジナルディにこだわるユーザーをバックアップするためだ。

もちろん、手の届きやすい鍛造であつてもモータースポーツからのフィードバックは精力的だ。その好例となるのが、CR Kaiを進化させたCR Kai WAMIだ。軽さと強度を両立すべく11R、17R、19Rの3サイズに投入されている。もちろん、手の届きやすい鍛造であつてもモータースポーツからのフィードバックは精力的だ。その好例となるのが、CR Kaiを進化させたCR Kai WAMIだ。軽さと強度を両立すべく11R、17R、19Rの3サイズに投入されている。

モータースポーツからのフィードバックというコンセプトは変えることなく、ストリートスポーツとしての性能を多角的に突き詰めているワークエモーション。そんなこだわりを知ると、アニバーサリーモデルの「ZR10」が性能を追求して進化を重ねてきた、20年の集大成と言える一本だと強く感じさせられる。

F1で先行投入していたWFT製法を注ぐだけでなく、理想のハブ位置を考慮して供給マシンごとに専用設計としていたレーシングホイールと同様にサイズ専用断面形状を投入。セミテーパーからウルトラディープテーパーまで、4つものフェイスを用意したのだ。



...SPECIAL | OPTION SELECT **1**

WORK WORK EMOTION ZR10 KURENAI

ワーク 06-6746-2859 <https://www.work-wheels.co.jp>

ワークのスポーツホイールブランド、ワークエモーションが20周年を迎えた今年。そのアニバーサリーモデル的な意味合いも込められて開発され、誕生したのが「ワークエモーションZR10（ズィーアールテン）」である。

情熱や熱意を意味する「ZEA L」。そして、スーパーGT用ホイールデザインの10本スポークに由来する「RACING 10 SPORK」を略したのがZR10という名称だ。シリーズ最軽量であることにこだわった上で、高剛性を突き詰めたモデルであることはこれまでも紹介してきた通り。

スーパーGT直系モデルのZR10に スペシャルバージョン 『KURENAI』がデビュー

INCH	SIZE	H-P.C.D.	INSET	TAPER	PRICE(without tax)
17	7.0J	4H-100	47	SEMI	¥50,000
		5H-100	47	SEMI	¥54,000
18	7.5J	5H-114.3	47	MIDDLE	¥56,000
		5H-114.3	47	MIDDLE	¥62,000
	8.5J	5H-120	38	MIDDLE	¥62,000
		5H-114.3	38	DEEP	¥58,000

KURENAIカラーはメインカラーのブラックを塗装した後、リム部を切削してクリアレッドを重ねることで完成。フランジ部にブラックを残して2本の鮮やかなレッドラインを回転させる配色として、スピード感をアピールする。

そんなZR10に、スペシャルバージョンの『KURENAI』が、9月1日に追加リリースされる。

黒×赤のツートーンで魅せる迫力のカラーリングに、シビックタイプRやノートニスモ、WRX STIといったスポーツスペシャリティに限定したサイズ展開が特徴だ。ZR10本来のハイスベックに加えて、まさにチューナーサイズとなるラインアップだけに履きこなし時の満足感は格別。KURENAIに選ばれた車種のオーナーという優越感とともに、愛機とのベストマッチを決めよう。

※カラー：kurenai (BRM)
※付属品：エアバルブ、スポーツデカール
※センターキャップはオプションアイテム



リムはフローフォーミング製法「WFT」の採用により鍛造ホイールに迫る強度と粘り強さを実現。スリムな印象を受ける10本スポークは応力分散に優れ、さらにスポークサイドにリブ形状を与えることで剛性アップを図るとともに、さらなる軽量化が推進されている。